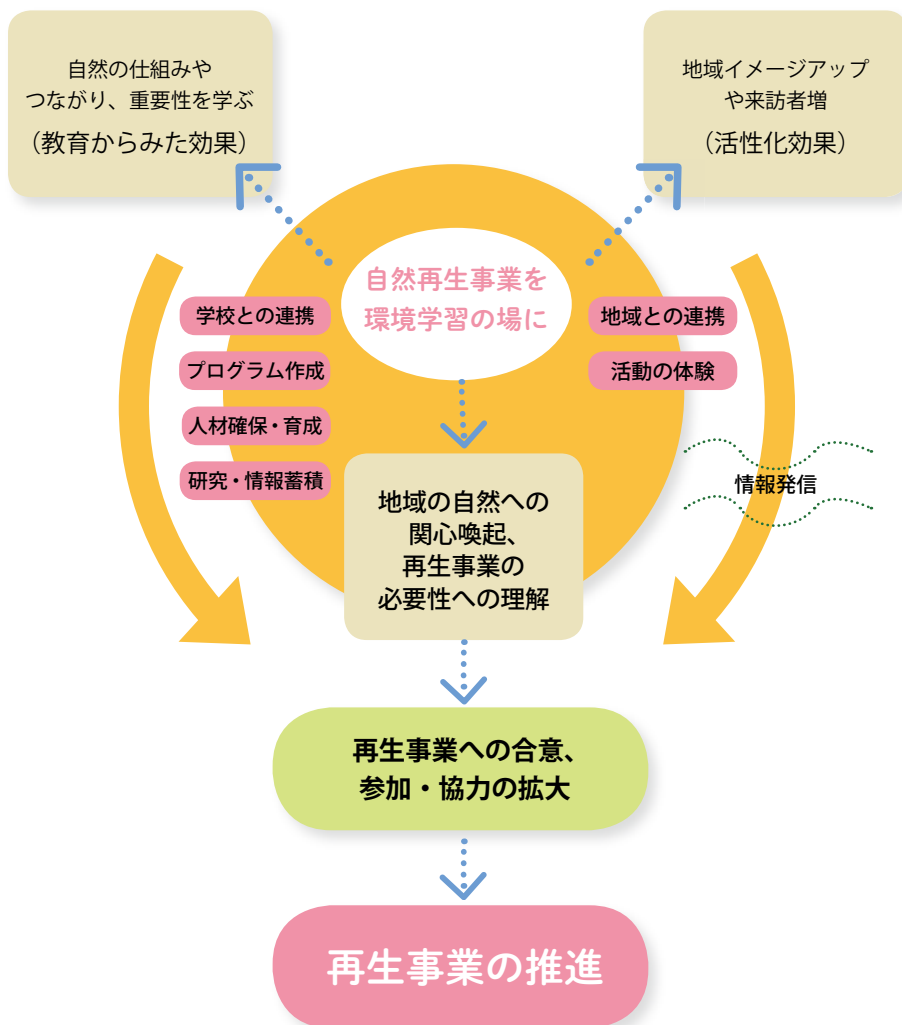


自然再生事業を環境学習の場に

自然再生の輪を広げていくためには、地域内外の人々の理解と合意が必要です。この中で、自然再生事業地を活用した環境学習は、自然環境への関心を高める上で効果的であり、合わせてその取り組み内容に関する情報発信を行うことにより、自然再生に対する理解を深め、幅広い参加を促す手段ともなります。

また、自然の仕組みやつながり、重要性を学ぶ場として適していることから、学校教育の一環としても活用されています。さらに、地域内外の人々の交流機会となるなど地域活性化への効果も期待されています。



環境学習を軸に、自然再生事業への市民参加を呼びかける — 釧路湿原

釧路湿原自然再生協議会では、「自然再生普及行動計画」（平成22年1月策定、平成27年3月改訂）のもと、自然再生への市民参加と環境教育を促進するため、湿原再生に関連する市民活動を募集。応募のあった活動について、活動予定や実施の様子をホームページや市町村の広報誌などで情報を発信し、市民の参加を呼びかけるとともに、統一ロゴの使用を認めるなど活動のサポートを行っています。環境学習をはじめ調査・研究、コンサート開催など幅広い活動がプロジェクトに登録されており、活動の輪が広がっています。

左：「ワンダリング」チラシ
右：「自然再生行動普及計画」冊子

地元高等学校による、植物を利用した水質浄化実験、環境教育フォーラム開催や、NPOによる湿原観察会などを、協議会公認の「ワンダグリンダプロジェクト」として情報発信



高校生による水質浄化の取り組み



NPO等による湿原観察会

伝統と森・里・川・海・湖を学ぶ子どもラムサールクラブ —三方五湖

平成30年より、生きものや三方五湖の里山・里海・湖の自然に関心がある、地元の福井県美浜町や若狭町の小学校3年生から中学3年生を対象に、自然環境学習プログラムの提供を行っています。名称は、三方五湖が平成17年にラムサール条約登録湿地となったことに由来しています。

ラムサールクラブでは、三方五湖で行われているたたき漁や柴漬け漁、ウナギ筒漁、シジミ漁といった伝統的漁業や、森・里・川・海・湖の連環を体感でき、伝統的産業と生態系サービスの理解と、自然再生の担い手確保を目的としています。また、兄弟がクラブ員であれば、小学校の1、2年でも参加できるなど、複数世代での人材育成も狙いの一つとなっています。

下表：子どもラムサールクラブの年間スケジュール
活動の最後には、自然再生協議会の総会で、活動内容を発表



たたき網漁の体験



ブナの森の保水力を確かめる実験

日程	場所	内容
5月	屋内	生き物観察ポイント確認
6月	湖岸のヨシ原再生地	ヨシ帯や砂の堆積地の生き物調査
7月	三方五湖別所川河口付近	川の生き物調査
8月	はず川水系串小川上流	川遊び、溪流の昆虫や魚の観察
11月	耳川源流ブナの森	落ち葉の積もるブナの森の様子や木の実の観察
12月	三方湖周辺	たたき網漁の乗船体験
1月	屋内	学んだことのまとめ
3月	屋内	自然再生協議会で活動の発表

「ふるさとの自然環境を学ぶ」をメインテーマとした環境学習を実施 —竜串

地元小学校では通年で総合学習の授業の中で環境学習を実施し、ふるさとの自然や自然再生についての理解を深め、自身と地域・自然との関わりについて考えるきっかけとなることを目指しています。地域の人々や専門家などが協力して、授業内容を検討し、講師としても協力しています。グラスボートで竜串の海を観察したり、海だけではなく山や川とのつながりについて考えるなど様々な授業が行われています。



グラスボートで竜串の海を観察



総合学習の授業「三崎川の生き物調査」

自然再生の取り組みを知るエコツアーを実施 —サロベツ

自然再生の取り組みを通して地域の産業や自然を知る機会をつくり農業と湿原の共生を推進しようと、自然再生事業地を見学するエコツアーやイベントが行われています。

エコツアーでは作業体験型のプログラムを取り入れ、ツアー参加者にも自然再生事業に協力いただいています。



エコツアー



ツアー参加者の協力

地域に浸透するサンゴ学習の発信 —石西礁湖

小学校の総合学習の時間を活用し、サンゴ礁の観察や調べ学習などの環境教育を実施しています（平成14年度～）。活動成果が学習発表会で発表されたり、学校による海岸清掃の企画に繋がるなど、主体的な取り組みへと繋がっています。



シュノーケリングでサンゴを調査



小学生による海岸清掃